CLOSE UP クローズアップ

経験生かし、働くママのサポートに邁進

マザーネット大阪本社にて（2009年3月）

ただひたすらに、「働くママを応援したい」という思いを遂げるために走り続ける上田理恵子さん（47）。株式会社「マザーネット」を設立して8年、試行錯誤を重ねる日々は今も変わらないが、「求められていることを常に考えながら、“今すべきこと”を一つずつ形にしていけたら」と信念を貫き通す。

◇息子の言葉で創業決意◇

「お母さんは自分の夢あきらめてへん？」。マザーネット設立のきっかけは、当時小学生の息子の言葉だった。保育園探しや育児休暇後の職場復帰、仕事と子育ての両立などに悩み苦労した経験から、働くママを総合的に支援する会社をつくることを夢見ていたが、踏み出せずにいたのだ。

それまで7年間、自宅を拠点に発足した「キャリアと家庭両立をめざす会」で電話や手紙による悩み相談を行っていた。しかし、仕事をしながらの活動には限界がある。創業には夫の反対もあり、中途半端な支援に悶々とする日々。

息子には「もっと先に、資金が貯まったころに」と返答した。すると、「僕たちのお金を使って」とコツコツと貯めてきたお小遣いやお年玉を差し出そうとしてくれた。「子どもたちにも夢をあきらめてほしくない。だからこそ私も頑張ろうと決めた」。もう迷いはなかった。4ヵ月後にはマザーネットを創業した。

◇働くママを親身にサポート◇

モデルとなるような組織もなく、手探りでのスタートとなった。「不安はなく、ただただ働くママを応援したいという思いだけだった。裸で海に飛び込むようなことは止めてとみんなに反対されたけれど、ポンと波の上に乗れた。飛び込んだからには後は泳ぎきるしかない」。固い決意は揺らぐことはなかった。

紆余曲折を経ながらも、着実に地盤を築いてきた。現在は大阪本社のほか東京や長野、福岡に支社を置き、約900人の「ケアリスト」が育児や家事の代行、急な子どもの発熱などに対応している。ほかに育児休暇復帰準備セミナーや子どもの自然体験スクールの開催、月刊情報誌の発行などのサービスを展開している。

ニーズは限りなくあり、それに1つでも多く応えていけるよう努力を続けている。「儲かるかどうかではなく、ママたちの助けになれるかどうか。1人が強く求めていることは他の人が求めていることでもある。時代の変化から目を離さず、たった今必要とされていることに全力を注ぎたい」

◇指南書でも応援◇

2月から新たに、直筆での「お悩み文通相談」も始めた。「メールよりも温かい手書きの文字に癒やされる人も多いし、支えにしてくれる人もいるんじゃないかなと思って」。3月には、働くママの指南書『働くママに効く心のビタミン』を出版。

「妊娠しても仕事はできる？」「子どもに仕事をやめて！と言われたら…」「保育所に入れなかったら」など自身の体験談を盛り込みながらアドバイスと50の格言（心のビタミン）を記した。「辛いときはきっと誰かが見ていてくれると頑張ってきた。自分の体験が全国のママたちのお役に立てば嬉しい」

夢は、マザーネットがいらなくなる社会の実現。しかし、不況の影響を受けてママたちの悲鳴がまた増えてきたという。「何をやってきたのかと情けなくなる」と唇を噛むと同時に、「自分にしかできない支援とは何なのか」とさらなる追求心を燃やしている。

（文・江中咲紀／写真・高島悠介）

プロフィール

（株）マザーネット　代表

上田 理恵子（うえだ りえこ）さん

1961年鳥取県米子市生まれ、大阪育ち。大阪市立大学卒業後、メーカーに就職。2001年に退職し、株式会社「マザーネット」を創業。06年「第1回にっけい子育て支援大賞」、07年「女性のチャレンジ支援賞」（内閣府・男女共同参画大臣賞）などを受賞。09年3月に著書「働くママに効く心のビタミン」（日経BP社）出版。単身赴任中の夫、高校2年と中学3年の息子と4人家族。